



## 野鳥が見られる環境

野鳥は種により住んでいる環境が違います。今回は野鳥が住む環境に注目してみます。

●ホオジロ：森林に近い開けた場所に住んでおり、サッカー場ほどの開けた場所があれば山の中にもいるほか。国道や高速道路の法面にもいます。英語では“meadow”＝「草原の」と名がつきますが、草原にはあまりいません。旭山では展望台から噴水広場周辺にいますが、森の中にはいません。

●アオジ（右写真上）：海岸草原、河川敷から山林の林道沿いまで笹や背の高い草や灌木が生い茂った場所であれば幅広く住んでいます。旭山ではここ2、3年であまり見られなくなっていて気がかりです。

●カワラヒワ：アオジ同様海岸から山地まで広く住んでいますが、森の中にはおらず、森林に接した開けた場所にいます。

●ウグイス：やはり生息域は広く、笹藪があれば海岸近くから高山までどこにでも住んでおり、灌木の藪にすることもあります。

●クロツグミ（右写真中）：森林の鳥というイメージが強いですが、森林に近い開地や山から離れた防風林や孤立林にすることもあります。

●ヤマゲラ：クロツグミ同様森林の鳥のイメージですが、森林に接していればある程度開けた場所にも出て来ます。

●オオムシクイ：よく茂った木があれば街中の公園や庭にも来ます。こんなところにいるんだという意外な出会いも多い鳥です。

●センダイムシクイ：完全な山の広葉樹林の鳥で、疎林にはいません。

●コサメビタキ：太い木の横枝に営巣し、大木が多い森林にいます。

●キビタキ：広葉樹林、疎林にすみ、開けた場所にはいません。

●オオルリ：溪流に営巣するため広葉樹林内の川の近くにいます。

●キセキレイ：河川の上流域もしくは渓谷の鳥ですが、狭い川であれば海の近くにもいます。月寒公園にはかつていなかったのが、ここ数年主に望月寒川沿いで見られるようになってきたとのことです。

●ヒヨドリ：元々森林性の鳥ですが20世紀に街に進出してきました。

●キジバト：農耕地、山林、市街地と幅広く見られる鳥です。

●旭山にカッコウがないわけ：カッコウ（右写真下）は草原や開地の鳥ですが、旭山記念公園がある場所はかつてはげ山でカッコウも普通にいました。しかし1970年に公園としてオープンした際に植林され、木々が育ち環境が変わったことにより、1980年代以降はたまに飛んで来るだけになりました。

渡り鳥の場合、春と秋の移動時には公園など開けた場所に来て数日間見られることがあります。

旭山記念公園と旭山都市環境林でも場所により見られる野鳥が違うことに着目してみてください。



## レストハウス「ぼるく」営業中！ 10時～17時

旭山記念公園レストハウス「ぼるく」です。  
北海道の桜の季節もあっという間に過ぎてしまいました。  
さて、ぼるく店内では、公園内で撮影された野鳥や動物の  
フォトコンテストを開催中です。

コンテストはみなさまの投票  
により順位が決まります。

（投票は6月8日締切）  
さあ今年は、どなたの作品が  
金賞に輝くでしょうか。  
お楽しみに！





## 旭山野鳥メモ番外編③ コヨシキリ

コヨシキリ Black-Browed Reed-Warbler *Acrocephalus bistrigiceps* スズメ目ヨシキリ科

夏鳥。河川敷や河川近くの草地で繁殖。北海道で個体数多い。

雌雄同色。かつてウグイス科だったムシクイ・ヨシキリ系は見分けが難しいが、コヨシキリは左右側頭部に濃い帯があるのが特徴。

茨戸川緑地で多く見られ、「チッピーピーピーギョギョギョ」などと全体的に低音の早口で呟くような囀り声がよく聞かれる。草むらの低木特にヤナギ類が好きで、その木に来ては囀り、少しすると元の草むらに戻る行動を繰り返す。5m以上の木にはとまらない。草むらでは探しにくい、木で囀るときは観察撮影のチャンスだ。

石狩市はまなすの丘公園では石狩川沿いで見られ、当別町でも石狩川沿いの緑地で見られる。千歳市旧長都沼でも見られる。

北区屯田遊水地ではかつて多く見られたが、ここ数年でほとんど見られなくなった。一方似たような環境に生息するオオヨシキリの数が増えており、争いに負けた可能性がある。

旭山では現在まで未記録だが、近隣の住宅街の庭で秋の移動時に見られたことがあり、旭山でも見られる可能性はありそう。色合いが地味なせいか草原の野鳥の中でも人気はいまいちで、当たり前にいるのであまり話題にも上らないが、大きく口を開けて囀る姿は愛嬌があり、もっと人気が出てもいい野鳥だ。



## 2025年6月の野鳥トピックス

- シマエナガ：園内でときどき見られています
- キビタキ：園内数か所で囀りが聞かれ探せば姿も見られます
- オオルリ：囀りが聞かれなくなりときどき見られるくらいです
- コサメビタキ：例年6月はあまり見られず7月以降に期待です
- クロツグミ：例年6月下旬にまた囀りが聞かれるようになります
- アオバト：オーアオーという鳴き声を聞く機会が増えてきました
- オオムシクイ：6月中はジジロジジロと囀りが聞かれます（右写真）
- ウグイス：6月に入り囀りがあまり聞かれなくなりました
- ヤブサメ：園内一円の笹藪で「シリシリシリ」と囀るときどき笹藪の中に姿を見ることができます
- クマゲラ：園内でときどき見られています ●オオアカゲラ：幼鳥が見られるようになってきました



## 旭山ミニ生き物図鑑2025年6月



ハルニレの葉を食べるエゾリス 6/1



今年もニホンカナヘビ 5/16



キアゲハ春型はやや小型 5/31



エゾオオマルハナバチ刺さない 5/24



園内で数年ぶりニシキゴロモ 5/16



オオハナウド今年は多い 5/31



近年増えているギンラン 5/23



よく似たクゲヌマラン 5/26



公式サイト

「アカゲラ通信」 第140号 2025（令和7）年6月9日発行

（公財）札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>

〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311（金・土・日・祝日 10時～16時）FAX 011-200-0351